

第119回定時株主総会 事前質問へのご回答

当資料では、2023年6月14日(水)の第119回定時株主総会の開催にあたり、事前に当社専用ウェブサイトからいただいたご質問の中から、株主の皆様のご関心の高い事項について、以下の通り、ご回答申し上げます。

Q1. 現在の株価をどう考えているか。今後の株価を上げて行くための対策は

(参考)株主総会前日 6月13日(火)終値:2,173.5円)

A.

現在の株価水準には満足していません。「100年に一度の大変革期」の真っ只中にある自動車産業に対する厳しい見方が表れていると理解しており、将来に期待を持っていただけるような未来への投資を積極的に行っていきます。株主・投資家の皆様へトヨタが目指す未来や現状を丁寧にお伝えし、理解を深めたいと考えています。「クルマはみんなでつくるもの」であり、約100万人に増加した株主の皆様を始め、すべてのステークホルダーに今後も応援いただけるよう、取り組みを進めていきます。

Q2. 水素エンジン車や燃料電池車の開発に関して、水素の供給網の構築など、

普及に向けた取り組みは

A.

2030年の水素市場は、欧州、中国、北米の規模が圧倒的に大きく、燃料電池市場は2030年に向けて急速に市場が広がり、年間で5兆円規模になると予測されています。我々は、MIRAIの水素ユニットを使って、燃料電池の外販を進める計画で、既に、2030年に10万台の外販オファーを頂いています。その大半は、商用車です。急激なマーケットの変化に対応するために、2023年7月から新たに、水素ファクトリーという組織を設置し、営業、開発、生産まで、ワンリーダーの下で、一気通貫で即断即決できる体制にします。

また、水素の価格についてはまだまだ高額です。水素の利用を普及させていくために、トヨタは、「つくる」「はこぶ」「つかう」の「つくる」ということにもパートナーの皆様と共に取り組み、引き続き普及に貢献していきたいと思っております。

Q3. バッテリーEVの開発・普及へのロードマップを知りたい。EVは遅れているようだが、

挽回策は

A.

トヨタはマルチパスウェイの考えのもと、バッテリーEVの準備も進めています。電動車普及の目的はあくまでカーボンニュートラルを目指すことです。世界を見渡しますと、様々な国・地域でエネルギー事情は異なり、求められるクルマや使い方も違います。そのような考えのもとで、バッテリーEVの普及を目指し、2026年には世界年間販売150万台、2030年で世界年間販売350万台の販売に向けて、ラインアップの充実やバッテリーの準備を進めています。また、バッテリーEVの専門組織を立ち上げ、クルマ屋らしいバッテリーEVをお届けしていきます。

Q4. 配当を上げてほしい。今後の配当方針は

A.

2023年3月期の期末配当は7円増配の1株当たり35円、中間配当25円と合わせ、年間では8円増配の60円としました。従来は「連結配当性向30%」を目安にしていたが、当社株を長期に保有いただく株主の皆様のご期待に応えるため、より配当に軸足を置き、「安定的・継続的に増配を実施」する方針に見直しました。

トヨタ車オーナーとも重なる、約100万人の株主の皆様に、安定的・継続的に増配で報いていくことを、新体制の持続的成長への決意表明としています。

Q5. 関係会社の不祥事について、トヨタとしてどの様に受け止め、

どんな対策を考えているか

A.

お客様、株主の皆様をはじめ、関係各所の皆様に大変なご迷惑とご心配をおかけし、お詫び申し上げます。

一連の問題は 個社の問題ではなく、グループ全体で取り組むべき問題と認識しています。

トップ自身が現場において、本音を聞き、「逃げない・隠さない・嘘をつかない」といったぶれない軸をもち、膿を出し切る覚悟で、最後のチャンスと思い、取り組まなければならないと考えています。各社の社長とコミュニケーションを行い、①問題発生時にはまず止めて、正確に分かるまで原因を究明し、対策を実施する、②自由に意見を言える風通しの良い職場・仕組みづくりを行うといった取り組みを進めています。

時間はかかるかもしれませんが、皆で悩みを言い、助け合い、素直にありがとうと言えるグループになっていくため、文化や風土の改善を続けていき、お客様の信頼を取り戻せるように全力で取り組んでいきます。

Q6. 自動車の電動化が進む中、全固体電池等、車載電池の開発はどの程度進んでいるか

A.

トヨタは、2026年次世代バッテリーEV導入を目指して取り組みを進める中、電池も新技術を駆使して進化させ、お客様の期待に応えていきます。

現在主流の液系リチウムイオン電池は、トヨタが長い知見を持つ角形電池のエネルギー密度の向上によりパフォーマンスを高めます。また、ハイブリッド車向けに開発してきたバイポーラ構造をバッテリーEVにも採用することで、良品廉価な普及版電池から、更なるパフォーマンス性を追求した電池まで、お客様に多様な選択肢をお届けできるようラインアップの拡充を進めます。

さらに、革新電池として期待の高い全固体電池については、いよいよバッテリーEVへの搭載を目指し、実用化フェーズに入ります。競争力ある電池のフルラインアップで、今後のトヨタのバッテリーEVの進化を支えます。

Q7. 役員への女性登用について、考えと取り組みについて知りたい

A.

役員に登用については、従来より、性別、国籍等に関わらず、幅広く検討しており、これまでの実績、経験を踏まえ、適材適所の観点から総合的に検討しています。女性が活躍できる会社にしていく事は、これからトヨタがサステナブルに事業を進めていくため、非常に大切だと考えています。本総会でご提案しました取締役・監査役におきましても、外国人を4名、女性に関しましては2名と、昨年と比較して、それぞれ1名ずつ増やしています。

また、将来の役員候補として、女性の採用数を拡大しています。事務系では4割から5割、エンジニアでは2割弱と、大きく採用を増やしてきております。将来的には役員・本部長・部長などさまざまな立場で女性や外国人の方が活躍できるよう取り組みを進めていきます。

Q8. ウーブンシティの現在の状況と今後について教えてほしい

A.

ウーブンシティの構想から約5年、予定通りに建設が進み、現在約20%弱の完成度です。

我々にとってウーブンシティは、クルマからモビリティへの変革において、それを実現するためのテストコースであると考えています。

多くの新しい技術が開発されるなかで、これまでは試作車とテストコースがあれば、クルマの技術開発はできていましたが、モビリティカンパニーへの変革を目指している今、

我々が実証実験で向き合わなければならないのは、クルマ単体ではなく、人・モノ・情報が街とインフラの中で複合的に繋がり、クルマがどうあるべきか、どう進化すれば社会のためになるかということです。

また、デジタルテクノロジーで技術開発を行い、それを活用するソリューション技術が今後1つの提供価値になっていきます。

ウーブンシティが、こういった事業ドメインとして進化をしていき、多方面で進化をもたらすと思っています。

随時、具体的な中身もお伝えしながら、ウーブンシティを育てていきたいと思っています。

以上